

工学部国際連携サマープログラム 2016 無事終了

今年で9回目を迎えた工学部国際連携サマープログラム。今年を受入プログラムとして、8月1日（月）から8月10日（水）まで4か国・地域の6大学から10名の学生を米沢キャンパスに迎え、工学部の学生16名と共に活動を行いました。今年度は「工学の視点からスマートで快適な生活を考えよう」のテーマの下、様々な活動を行いました。

今回、参加した海外協定校は、以下の6大学です。

タイ：ラジャマンガラ工科大学、モンクット王ラカバン工科大学

マレーシア：マレーシア工科大学

中国：東北電力大学

台湾：台湾大学、台湾中央大学（両大学においては2015年派遣サマープログラムで訪問）

今回のプログラムでは、山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）及び近未来の住環境を実証研究する施設「実証工房・スマート未来ハウス」見学のほか、比較対照のため、伯爵邸や櫛下宿などの昔の建物も見学しました。山形蔵王での合宿では「スマートとは何か」を話し合いながら、各グループでスマートな生活・モノについて考え、米沢での最終日に、グループごとのポスター発表を行いました。また、今年度は新しい試みとして、参加学生の関心に沿った専攻での研究室体験も行い、日本の研究環境を体感することもできました。これは参加者にも大変好評でした。

期間中は、参加した工学部生も臆することなく積極的に英語でコミュニケーションを図り、例年以上に交流の輪が広がったようです。

今年度も協定校生に対してはJSTの「さくらサイエンスプログラム」の採択を受けたことにより、プログラム最終日には東京にある科学技術館を訪れる機会も得ました。

実施にあたり、一般社団法人米沢工業会・山形大学工学部後援会をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

